

創造・参加・実践
No.789

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL 06-6375-9869(代)
FAX 06-6373-4133

発行責任者 羽野 敦之
編集責任者 白井 聖二

中央本部 組織オルグを開催

糸魚川地区支部

「組織課題」「支部の重要な役割」を確認

JR西労組は、2026年4月15日(水)、新潟県糸魚川市のヒスイ王国館において、糸魚川地区支部の13名参加のもと「中央本部組織オルグ」を開催した。開会に先立ち、川原中央副執行委員長より、「支部は各連合や地域協議会といった役割を担っている。支部の存在感を広めていきたい」と激励を行った。

続いて、中央本部を代表し、羽野中央執行委員長は、「組織オルグを通じて、支部の悩みや問題を共有しながら、課題の抽出に取り組みたい」と述べた後、①直近のJR西日本の経営状況、②新たな中期経営計画、③福知山線列車事故から21年を迎えるにあたって、④2026春学生活闘争の成果、⑤新規採用者の組織化について挨拶を行った。

また、金沢地方本部を代表し、香掛執行委員長は、①能登復興に向けた公共交通の役割、②北陸新幹線のご利用が過去最高だった、③GWにおける安全安定輸送、④税

制の課題、⑤在来線の業務移管、⑥世話役活動について挨拶を行った。

その後、JR西労組の組織の充実強化の取り組みについて、支部や分会を中心とした

職場でのきめ細やかな世話役活動を通じた、魅力と求心力のある組織の構築と職場活動の充実について、次代のJR西労組運動を担う青年女性委員会の育成と強化の取り組みについて課題意識を共有した。

また、政治への取り組みを

通じた政策課題、とりわけ「北陸新幹線敦賀以西ルート」問題の解決に向け、7月5日投票で決まる滋賀県知事選挙における三日大造氏への支援について、加えて、各地域で活躍しているJR西労組

員団会議所属議員との連携についても共有を図った。ディスカッションでは、組織運営の課題については、役員育成、青年女性委員会の活動、分会組織の再編などの課題が提起された。

また、共働関係については、JR西労組の政策提言の共有、地本・本部の要望については、機関紙のあり方や労組控除の詳細、業務課題などについて、活発な意見交換が行われ、改めて支部が重要な役割

を担っていることを確認し共有した。JR西労組は引き続き、組合員一人一人との対話を大切にし、生の声を聞くことで、組合員に寄り添った運動を展開していく。

西バス地本・中バス地本女性組合員意見交換会 女性が活躍できるバス会社へ

中央本部は、4月12日(日)、JR西労組広島地方本部会議室において、「西バス地本中バス地本女性組合員意見交換会」を開催し、西バス地本の女性組合員とお子様など約25名が出席し、日頃の業務などについて、意見交換を行った。

冒頭、羽野中央執行委員長は、①JR西日本の経営状況②企画提案運動③事故車両保存施設④ABC運動の推進⑤26春闘の成果⑥女性設備⑦女性の役員育成について挨拶し、「率直な意見を出

し合い、お互いに良い点を持ち帰る機会としてもらいたい」と述べた。

その後、JR西労組の女性活躍に対する取り組みや、西バス地本における女性活躍の取り組み、課題や育児・介護関係制度の改善や会社との議論経過について説明を受けた後、現在の制度や業務、更



挨拶を行う羽野中央執行委員長



ディスカッションでは組織運営の課題が提起された

た。参加者からは、「双方の取り組みを知る事が出来ること、勉強になる」と、制度や業務などについて意見交換を行った。

「世界で一番安全な鉄道を作り上げる」決意を確認した。JR西労組は、引き続き、JR西日本連合に加盟する各支部とも連携し、JR西日本グループの安全確立に向けた取り組みを進めていく。

また、同じような悩みを持つ者同士で話し合えてよかった、地方本部とJR西労組が真剣に考え、対応してくれていることが分かった」などの感想があり、会社を超えた有意義な意見交換となった。



西バス地本・中バス地本女性組合員意見交換会



オルグには糸魚川地区支部の13名参加

JR西日本連合 安全ディスカッション

グループ労組と連携し

JR西日本グループの安全確立に向け議論

JR西労組は、JR西日本連合の中核単組として、JR西日本連合が主催する「安全ディスカッション」へ参加した。

JR西日本連合では、4月を「安全月間」と位置づけ、「安全ディスカッション」を実施しており、グループ会社協力会社と更なる安全確立に向けた取り組みが行われている。

4月6日は岡山地区、7日は米子地区、10日は福知山地区を対象に開催され、3日間、JR西日本連合を含む、延べ11単組、54名が出席して議論した。

各単組からは、人財の確保に関する課題や増加傾向にある交通事故、熱中症対策や寒冷期対策へのハード面の不安が提起された。

また、グループ労組からJR西日本に対して、監督者の技術不足をはじめ、指示書の

遅延や課題報告後のフィードバックがないこと、契約単価増額の要望などの各種課題が伝えられた。

一方で、我々の取り組みによってコミュニケーションの改善、ABC運動の浸透、迷わず列車作業を止めるといった、安全に対する意識は少しずつ向上している。

また、グループ労組からJR西日本に対して、監督者の技術不足をはじめ、指示書の遅延や課題報告後のフィードバックがないこと、契約単価増額の要望などの各種課題が伝えられた。

一方で、我々の取り組みによってコミュニケーションの改善、ABC運動の浸透、迷わず列車作業を止めるといった、安全に対する意識は少しずつ向上している。



4月6日 岡山地区



4月7日 米子地区



4月10日 福知山地区